

経営改善目標の達成に向けた取組状況

1 法人の概要（令和5年7月1日現在）

法人名	(福) 神奈川県総合リハビリテーション事業団						
設立年月日	昭和48年2月2日	代表者名	理事長 霜尾 克彦				
所在地	神奈川県厚木市七沢516		電話番号	046-249-2240			
基本財産等	27,000,000	円	県出資額	10,000,000	円	県出資率	37.0 %

2 法人運営における現状の課題

(1) 専門職員の確保と育成

リハセンターの病院及び福祉施設における重度・重複障害者の家庭復帰など、質の高いサービスを継続して提供し、その役割・機能を発揮し続けるためには、医師をはじめとする多くの専門職の確保と育成が課題である。

(2) 新たなリハビリテーションサービスの提供

県産業労働局が進める「さがみロボット産業特区」における実証実験フィールドとして「ロボットの開発」への協力、県スポーツ局が進める「障害者の運動促進に向けた取り組み」への協力、県福祉子どもみらい局が進める障害者の「自動車運転再開に向けたプログラム構築」への協力、県健康医療局とともに進めている筋電義手バンクを活用した「筋電義手の処方訓練」など、県立病院として幅広く行政の課題に協力していく。

(3) 安定した経営基盤づくり

リハセンターが機能を発揮するためには、専門職員の確保・育成に加え経営の安定化が必要である。センター全体の自己収入のうち8割を占める病院の利用率の目標と実績に乖離が生じており、患者確保、利用率の向上が課題である。

また、新型コロナウイルス感染症への対応に加え、昨今の電気・ガス等のエネルギー価格をはじめとする物価高騰に対応していくため、収支分析の強化を図るとともに、事業費の効率的な執行等、支出を減少させ、状況変化に対応できる経営基盤の確立が必要になる。

(4) 危機管理対策の強化

今般の新型コロナウイルス感染症の拡大をはじめ、大規模災害など、今後いつ発生するか分からない危機に備え、医療・福祉・教育の施設として、リハセンターの危機管理体制を強化する必要がある。

(5) 内部管理体制の強化

700人以上の職員が在籍するリハセンターを運営するに当たり、法人のガバナンスの強化を図り、関係法令に適切に対応するとともに、より健全な事業運営に向けて取り組むために、不正行為や不祥事などのリスクを減らす必要がある。

3 経営改善目標の達成に向けた取組実績等

* 項目ごとに、下段の（ ）内に目標を、上段に実績を記載してください。

【県民サービスの向上】

● 福祉施設機能の充実

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
(ア) 1	七沢学園(児童)家庭復帰率	%	88.9	37.5				C
			(81.0)	(81.0)	(81.0)	(81.0)	(81.0)	
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)			
	卒業と共に退所となる高等部3年生2名の移行先が2名ともに他の障害児入所施設となったことに加え、その他の退所児童6名中3名が虐待等により家庭復帰が出来なかったため、目標を大きく下回った。				高等部の進路指導においては、今後とも学園の生活支援の充実を強化する中、支援学校と連携してグループホームを目指すアプローチを継続する。			
	備考							
	令和4年度退所者8名中、 ・家庭復帰 3名(グループホーム 1名、自宅 2名) ・施設入所 5名							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
(ア) 2	七沢学園(児童) 強度行動障害児受入	人	1.0 (2.0)	1.0 (2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	C
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)		今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)					
	強度行動障害児は、神奈川県強度行動障害対策連絡調整会議で、県独自の基準で認定を受けた障害児童を対象としており、現在1名が対象となっているが、令和4年度は新たな追加対象者が発生しなかった。		対象となる児童の数が少ないため、目標人数の確保には至っていないが、今後とも行動障害のある児童の受入れについて、積極的に取り組む。					
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
(ア) 3	七沢学園(児童) 集中療育受入	人	4.0 (8.5)	3.0 (8.5)	(8.5)	(8.5)	(8.5)	C
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)		今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)					
	令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染予防の観点から、積極的に受入れをしなかったため、3名にとどまった。		令和4年度当初は、児童部門で小規模のクラスターが発生したこともあり、短期入所事業の受入れを5月以降から段階的に開始した。今後、児童相談所と連携し、受入児童を増やしていく。					
	備考							
		7/11~9/5(1名)、8/23~9/30(1名)、8/2~8/31(1名)						

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
(イ) 1	七沢学園(成人) 家庭復帰率	%	100.0 (61.0)	80.0 (61.0)	(61.0)	(61.5)	(61.5)	A
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)		今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)					
	相談支援事業所と連携を図りながら、グループホームや日中活動の事業所(就労継続B型事業所等)を開拓したことで、丁寧に準備を進めることができたため、目標を達成した。		退所後の生活を計画的に準備し、事業所等での体験を重視して、今後とも利用者の意思決定で地域移行ができるよう努める。					
	備考							
		令和4年度退所者5名中、 ・家庭復帰 1名、グループホーム移行 3名 ・施設入所 1名						

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
(イ) 2	七沢学園(成人) 医療重度者受入	人	5.0 (3.0)	5.0 (3.0)	(3.0)	(3.0)	(3.0)	A
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)		今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)					
	医療との連携を図り、安定した生活支援を提供することができたため、目標を達成した。		今後とも医療との連携を継続する。					
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
(イ) 3	七沢学園(成人) 強度行動障害者受入	人	6.0 (6.0)	6.0 (6.0)	(6.0)	(6.0)	(6.0)	A
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)				
	強度行動障害者の行動特性に応じた支援を展開することができたため、目標を達成した。			強度行動障害がある利用者については、人権を重視して、利用者の意思決定を尊重し、身体拘束を行わない支援を展開していく。また、受入れについても積極的に取り組む。				
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
(ア) (イ) 4	七沢学園(児童・成人) 満足度調査評点	点	3.4 (3.1)	3.4 (3.1)	(3.1)	(3.2)	(3.2)	A
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)				
	第三者委員の相談を毎月実施しており、訪問日は毎回利用者に周知している。また、半年に一度、苦情解決連絡会を実施して委員同士で情報交換を行う等、意思決定支援に関する客観的な意見を聞き入れる機会を設定している。			今後とも利用者支援においては、虐待防止、身体拘束ゼロに向けて取り組むとともに、意思決定支援を組織的に取り組むことで支援の質の向上を試みる。				
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
(ウ) 1	七沢療育園 超・準超重症児受入	人	11.6 (10.0)	12.5 (10.0)	(10.0)	(10.0)	(10.0)	A
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)				
	令和4年度も短期入所を含め、医療と連携した超・準超重度児の受入れを行ったため、目標を達成した。			今後とも医療と連携した受入れに努める。				
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
(ウ) 2	七沢療育園 満足度調査評点	点	3.8 (3.7)	3.9 (3.7)	(3.7)	(3.7)	(3.7)	A
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)				
	令和4年度もコロナ禍で家族の面会を制限せざるを得なかったが、リモート面会や、写真・手紙を活用し、家族に日常の様子をお知らせすることができたことが評価につながったと思われる。			令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後に、面談室での面会や、屋外での散歩など直接接する機会を増やしている。現時点ではフルオープンに至っていないが、徐々に緩和していく予定である。				
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
(エ)1	七沢自立支援ホーム 家庭復帰率	%	89.5 (91.0)	90.3 (91.0)	(91.0)	(91.0)	(91.0)	B
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	肢体不自由部門では27名中24名、視覚不自由部門は、14名中13名と、利用者のほとんどが家庭復帰しているが、医療機関への入院や施設への移行者が計4名おり、目標をわずかに達成できなかった。			今後とも、リハビリテーション訓練の提供を行い、家族や地域の相談支援事業所と連携し、家庭復帰に向けて努める。				
	備考							
肢体不自由部門：88.9% 視覚不自由部門：92.9%								

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
(エ)2	七沢自立支援ホーム 満足度調査評点	点	3.6 (3.0)	3.5 (3.0)	(3.0)	(3.1)	(3.1)	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	第三者委員との相談機会を設定し、その内容を支援に反映するよう試みている。また、接遇や呼称など人権意識を高める取組を継続したため、目標を達成した。			今後とも、利用者支援の質を向上する努力を継続する。				
	備考							

● 病院機能の充実

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
1	神奈川リハ病院 家庭復帰率	%	87.5 (81.0)	87.9 (81.0)	(81.0)	(81.0)	(81.0)	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	患者の社会復帰を実現する施設として、運動機能の回復から日常生活動作のサポート、就労支援までを総合的にカバーし、高度なりハビリテーション訓練を提供することで、在宅復帰率80%以上を維持している。			地域生活へ移行後の患者について、回復した機能が低下し、再度のリハビリが必要となる場合が考えられる。地域連携の取組を通じ、それらのニーズを掘り起こすなど、患者の社会復帰に対して継続した支援を実施していく。				
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
2	神奈川リハ病院 満足度調査評点	点	3.6 (3.4)	3.7 (3.4)	(3.4)	(3.5)	(3.5)	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	新型コロナウイルス感染症による面会制限などで患者の不安や不満が増しやすい中、利用者からの要望や苦情について一つ一つに適切に対応するとともに、その結果を紙面・口頭・掲示などにより回答・周知することで、満足度調査評点を維持することができた。			ポストコロナに意識が向けられ、制限と緩和のバランスのとれた対応が求められている。医療機関として院内クラスターを防ぐことを主軸に置きつつ、患者が不満を抱かないように適度な制限と段階的な緩和を実施していく。				
	備考							

【収支健全化に向けた経営改善】

● 病院の利用率

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
1	神奈川県リハ病院 入院患者利用率	%	74.7 (90.0)	79.5 (90.0)	(90.0)	(90.0)	(90.0)	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	<p>いまだ、新型コロナウイルス感染症による影響は続いているが、ポストコロナに向けた規制解除の動きは感染対策による移動制限や入院を敬遠していた患者の不安感を緩和する方向に働いた。8月に感染者数が過去最大となった中、院内で継続していた感染対策は院内クラスターの発生を防ぎ、感染者数の減少後に徐々に増え始めた患者の安定的な受入れにつながり、令和3年度よりも利用率を向上させることができた。</p>			<p>再度の感染拡大を警戒し、神奈川モデル認定医療機関の機能を維持する。地域を支える総合リハビリテーション医療拠点として、職員の感染対策を継続し、リハビリを必要とする患者を安定的に受け入れる受け皿として機能する。また、地域連携システムの活用やD to D、地域のクリニック等との連携を強化し、病院の認知度向上と患者の確保に努めていく。</p>				
	備考							

● 福祉の利用率

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
2 ①	七沢学園(児童) 利用率	%	88.8 (98.0)	86.7 (98.0)	(98.0)	(98.0)	(98.0)	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	<p>令和4年度は、家庭及び施設等の受入先の都合により、年度途中で3名の利用者が退所となった一方、新規入所者を3名ほど受け入れたが、この新たな入所者が集団に適應するまでかなりの時間を要したことから、更なる利用者の受入れができず、目標を達成できなかった。</p>			<p>児童寮は4つのユニットで構成され、1つの生活単位が7名程度の集団である。小集団であるがゆえ、利用者間のトラブルなど人間関係の調整は常に必要となる。新入所者の受入れには母集団との適性が一つの判断材料になるため、集団を安定させ、目標値に近づける努力を継続する。</p>				
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
2 ②	七沢学園(成人) 利用率	%	96.6 (93.1)	72.5 (93.1)	(93.1)	(93.1)	(93.1)	C
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	<p>学園成人では、生活介護事業と生活訓練事業をそれぞれ15名で行っている。令和4年度の生活介護事業は満床でスタートしたが、生活訓練事業においては、新型コロナウイルス感染予防対策で支援学校高等部卒業生に対する体験実習ができなかったこともあり、例年になく入所希望が少なかったため、目標を達成できなかった。</p>			<p>令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら、体験実習を実施し、利用者の獲得に努める。</p>				
	備考							

生活訓練利用者 6名（内、高等部卒新入所者 3名）

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
2 ③	七沢療育園 利用率	%	89.6 (97.0)	92.0 (97.0)	(97.0)	(97.0)	(97.0)	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	定員40名のうち、短期入所は1名＋空床部分として いるが、短期入所者のニーズに対応するため、実態と しては短期入所枠を拡大して運用している。 その中で、短期入所については、新型コロナウイルス 感染予防対策で一定の制限を行ったため、利用者数 が伸びず、目標を達成することができなかった。				長期入所の人数を増やすと短期入所の受入れを 制限せざるを得ないため、バランスを図り、それ ぞれの受入れに対応していく。			
	備考							
令和4年度、短期入所受入れ数一日平均2.4名								

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
2 ④	七沢自立支援ホーム 利用率	%	64.9 (94.1)	68.1 (94.1)	(94.1)	(94.1)	(94.1)	C
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大への不安 や、その予防のために、外泊や外出の制限を継続した ことから、利用率が低迷した。				肢体不自由部門においては、近隣の回復期病院 や介護保険施設を訪問してPRに努める。また、 視覚障害者部門においては、当院眼科との連携を 継続して利用者確保に努める。			
	備考							

4 取組実績等についての総括（法人）

- 令和4年度の経営改善目標の達成に向けた取組実績等の自己評価は、年度モニタリングの評価の目安を参考に評価した。目標値に対して達成率100%以上をA、85%～100%未満をB、85%未満をCとした。
- 神奈川リハビリテーション病院においては、令和4年度も前年度に引き続き、神奈川モデルの重点医療機関協力病院・発熱診療等医療機関・中和抗体療法外来拠点施設の役割を維持した。新型コロナウイルス感染症の感染者数の急増に対して、一時はICU病床を6床体制で稼働し対応したが、院内の感染対策の徹底によりクラスターを起こすことなく安定的に患者を受け入れることができた。さらに、新型コロナウイルス感染症への対応として、一般市民向けに5,600回を超えるワクチン接種を行うなど、病院としての診療体制を維持しながら感染症対応にも尽力した。
- 福祉施設においても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により感染予防対策を継続して運営に臨んだ。このことにより、短期入所及び通所利用の制限を継続せざるを得ず、全体として利用率は前年度を若干下回る77.8%となった。新型コロナウイルス感染に関しては、予防対策を実施していたものの7月に児童部門の東ユニット内で小規模のクラスターが発生した。しかしながら、県のクラスター対策班等の協力のもと対応を行い、重症化する利用者もおらず他部署への拡大もなかったことから、最小限にとどめ収束するに至った。一方、福祉局内の運営については、七沢自立支援ホームにおいて、重度重複障害者への対応を目指し、年度当初より肢体不自由部門と視覚障害者部門の一体化運営を実施するなど新たな試みを開始した。また、身体拘束ゼロに向けた取組をはじめ、当事者目線の障がい福祉の実現に向けた実践を行い、利用者支援の向上を目指す一年となった。
- 病院及び福祉施設の利用者満足度は、施設内における新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努め、時節に応じて利用者に対し、外泊・外出の制限等の協力を求めたが、多くの利用者に理解をいただき、目標値に対して、すべての項目において達成することができた。
- 令和4年度は、病院・福祉施設等の運営に当たり、患者・利用者の安心安全を確保するために、新型コロナウイルス感染症に対する一部の制限を残しながら、利用率の回復に努めた。また、原油・原材料価格の高騰等により、経営に大きな影響があったが、職員一丸となって節電・節減に取り組む等、効率的な運営に努めた。
- 令和5年度は、患者・利用者の安心安全を念頭に、これまで培ってきた専門技術やノウハウを最大限に活用し、県立施設としての役割を果たした上で、経営計画の着実な推進に取り組むとともに、利用率の改善や人員配置・業務の効率化を進め、収支健全化と県民サービスの維持・向上に引き続き取り組んでいく。

5 取組実績等についての総括（所管課）

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、すべての施設で利用率が目標値を下回る結果となったが、その一方で、患者満足度が高評価を維持したことや、福祉施設内で小規模なクラスターは発生したものの、感染拡大を最小限にとどめ、施設閉鎖等の事態を引き起こすことなく施設を安定的に運営したことは評価できる。
- また、リハ病院においては、前年度に引き続き、帰国者・接触者外来の設置やワクチン接種を継続的に行ったほか、重点医療機関協力病院としての役割を拡充させるなど、地域の感染症医療に積極的に協力している。
- 今後とも、必要な感染症対策は継続しつつも、県立施設としての機能を発揮するため、これまで培ってきた専門技術やノウハウを最大限に活用し、病院が取り組む地域連携の推進などにより利用率の向上を図り、人員配置や業務の効率化を進め、収支の健全化と医療・福祉の質の向上の双方に取り組んでいただきたい。

6 第三セクター等改革推進部会の総合評価・今後の取組に向けた意見

評価結果	
B	新型コロナウイルス感染症の5類移行後の病院施設や福祉施設の利用率向上等の取組を通じて、今後の成果を期待したい。